

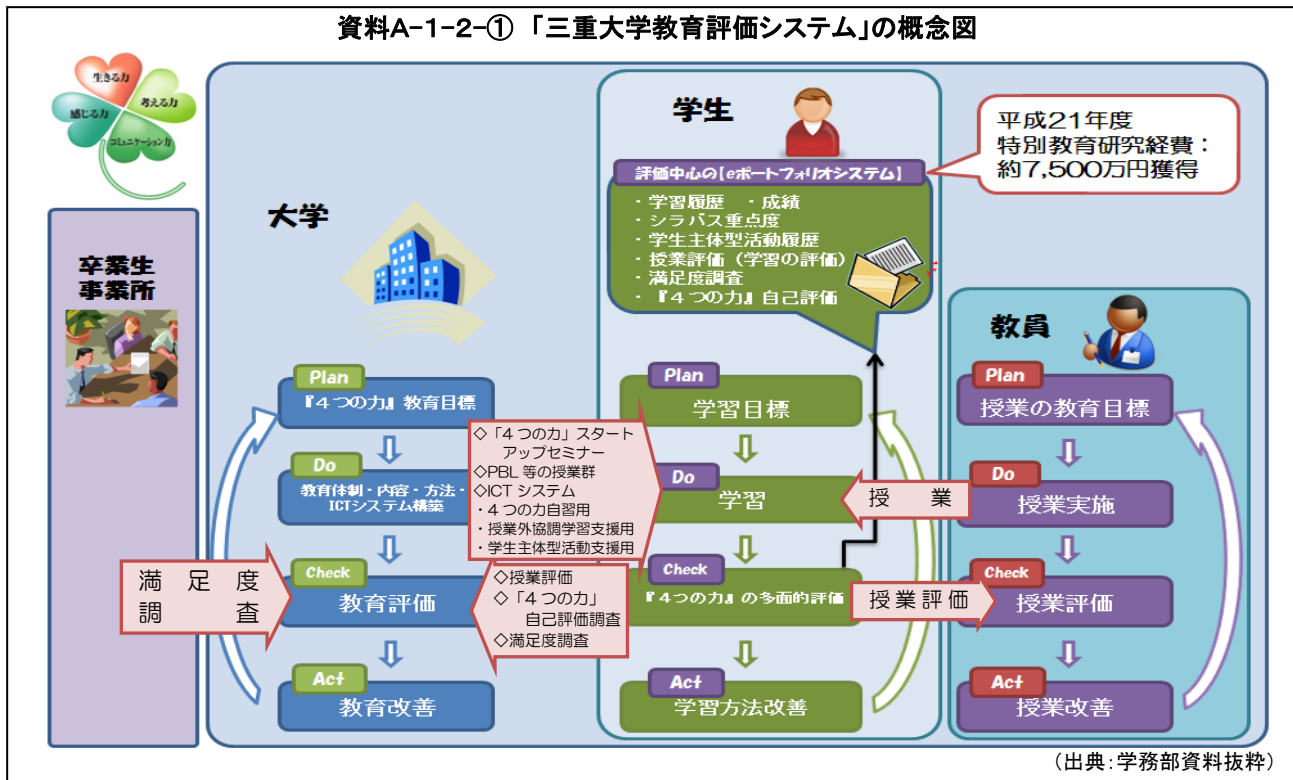
平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
三重大学

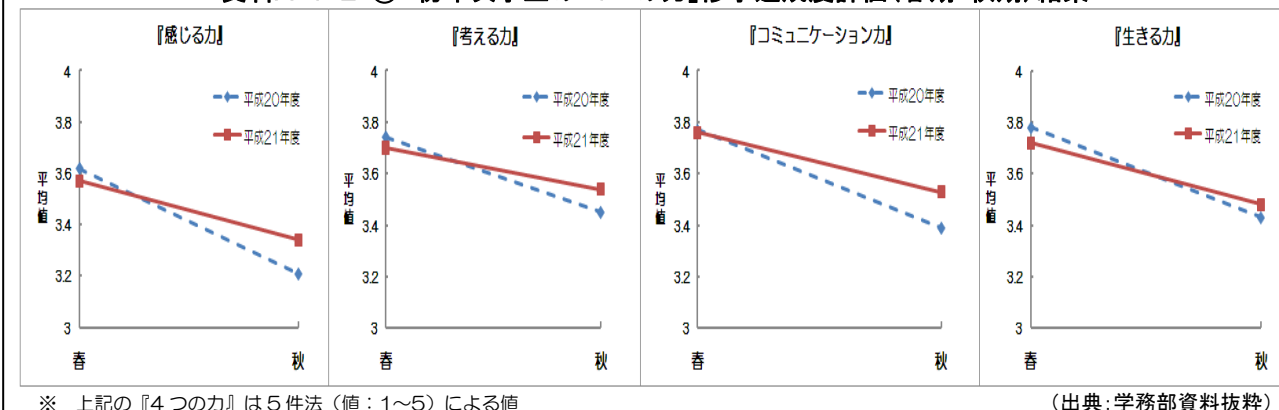
目 次

資料 A-1-2-	「三重大学教育評価システム」の概念図	1
資料 A-1-2-	初年次学生の「4つの力」修学達成度評価（春期・秋期）結果	1
資料 A-1-2-	「文部科学省各種GPプログラム」選定取組一覧表	1
資料 A-1-2-	「国際環境インターンシップ」の例	1
資料 B-4-2-	競争的資金獲得者に対する優遇措置の実施状況等について	2
資料 B-4-2-	受託研究・共同研究等の獲得状況について	2
資料 B-4-2-	顕著な成果の例について	2
資料 C-1-2-	「広報戦略会議」について	3
資料 C-1-2-	「文化フォーラム」の開催状況と広報活動の効果	3
資料 C-1-2-	「文化フォーラム」に関する満足度調査結果	3
資料 C-1-2-	「学長と記者との懇談会」の状況	3
資料 C-1-4-	「産学連携技術者育成事業」の実績について	4
資料 C-1-4-	「平成20年度三重大学教員免許状更新予備講習」について	4
資料 C-1-4-	「平成21年度三重大学教員免許状更新講習」について	4
資料 C-1-5-	「歴史街道GIS」について	5
資料 C-1-5-	「海女研究会」の主な活動について	5
資料 C-1-5-	「レクチャーコンサート」の参加状況等について	5
資料 C-2-1-	「戦略研究プロジェクト研究室」について	6
資料 C-2-1-	「包括的連携協定」等の締結状況について	6
資料 C-2-1-	産学連携戦略展開事業の採択について	6
資料 C-2-2-	「みえ防災コーディネーター育成講座」について	7
資料 C-2-2-	「美し国おこし・三重さきもり塾」について	7

資料A-1-2-① 「三重大学教育評価システム」の概念図



資料A-1-2-② 初年次学生の「4つの力」修学達成度評価(春期・秋期)結果



資料A-1-2-③ 「文部科学省各種 GP プログラム」選定取組一覧表

採択年度	教育の質向上に向けた大学教育改革の取組	取組代表者	取組名称	採択金額
20	質の高い大学教育推進プログラム	朴 恵淑	三重大ブランドの環境人材養成プログラム	57,600 千円
	大学院教育改革支援プログラム	駒田 美弘	国際推薦制度による留学生教育の実質化	61,083 千円
21	大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム	後藤 太郎	隣接学校園との連携を核とした教育モデル	41,000 千円
	大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム	堀 浩樹	保健医療の国際化に対応する医学教育	65,850 千円

(出典:学務部資料抜粋)

資料A-1-2-④ 「国際環境インターンシップ」の例
— 国連気候変動枠組み条約 15 回締約国会議(COP15)への参加 —

- ・場 所：デンマーク・コペンハーゲン
- ・日 程：平成21年12月7日～18日
- ・参加者：4名（医学部・生物資源学部・人文学部）

- ※ 参加者の渡航費用は全額負担し、単位（2単位）を認定した
- ※ 国際環境インターンシップの例として、他に韓国の16の企業（三星、現代、LGなど）や団体、NPO法人（韓国環境教育推進連合など）、国連関連機関（ユネスコ、国連生物多様性条約など）に広がっている。



(出典:三重大ブランドの環境人材養成プログラムウェブサイトより)

資料 B-4-2-① 競争的資金獲得者に対する優遇措置の実施状況等について

○全学共用スペースの主な配分実績について

施設名	階数	使用室名	面積(m ²)	使用者名(部局)	使用期間
総合研究棟Ⅰ	2	共用実験室(3・4・5)	455	武田保雄(工)	H20.4.1~H23.3.31
	4	共用実験室(9・10・11)	285	駒田美弘(医)	H20.4.1~H23.3.31
総合研究棟Ⅱ	2	共用実験室(16-2)	60	平松和政(工)	H21.4.1~H24.3.31
	3	共用実験室(8)	98	船岡正光(生資)	H21.4.1~H23.3.31
	4	共用実験室(3)	131	珠玖 洋(医)	H19.4.1~H22.3.31
		共用実験室(5)	259	西川政勝(病)	H19.1.1~H22.3.31

○平成 21 年度における報奨金制度の主な実績について(平成 20 年度実績対象)

研究者氏名	所属部局名	間接経費 受入額	報奨金額	主な外部資金の実績
船岡正光	生物資源学研究所	25,837,381	50 万円	JST・戦略的創造研究推進事業
西川政勝	医学部附属病院	19,390,702	50 万円	民間企業等との受託研究
今西誠之	工学研究所	12,530,191	50 万円	JST・重点地域研究開発推進プログラム (シーズ発掘試験)
小川眞里子	人文学部	9,239,995	46 万円	科学技術振興調整費

* 報奨金は、外部資金の間接経費を受け入れた研究者を対象として、間接経費受入額の5%または 50 万円のいずれか低い額を支給

○平成 21 年度における学長表彰者について

表彰日時	対象者
平成 21 年 8 月 26 日(水)	12 名(人文1、医学3、工学4、生物3、病院1)

* 学長表彰の対象者は、報奨制度における間接経費受入の総額が 300 万円以上の研究者を対象

(出典:学術情報部作成資料抜粋)

資料 B-4-2-② 受託研究・共同研究等の獲得状況について

区 分	平成 19 年度		平成 20 年度	
	件 数	金 額(千円)	件 数	金 額(千円)
民間等との共同研究	247	479, 628	247	426, 285
受託研究	127	532, 947	130	811, 948
寄付金	1,176	732, 636	1,165	690, 851
合 計	—	1, 745, 211	—	1, 929, 084

(出典:平成 20・21 年度三重大学概要資料編抜粋)

資料 B-4-2-③ 顕著な成果の例について

○授賞

研究者名	成果の内容	研究業績等
鈴木宏治	第 45 回ベルツ賞(1 等賞) 〈贈呈式:2008 年 11 月 19 日 ドイツ大使公邸〉	受賞対象論文:「血管内皮細胞の抗血栓分子トロンボモデュリン(TM)による循環維持機構の解明と遺伝子組換え TM による血栓制御の臨床展開」 (共同研究者:丸山征郎・鹿児島大学教授)

(出典:学術情報部作成資料抜粋)

○採択

研究者名	採択事業名	採択課題名等
(代表者) 珠玖 洋	先端医療開発特区 (スーパー特区) 〈内閣府健康研究推進会議〉	<ul style="list-style-type: none"> 課題名:複合がんワクチンの戦略的開発研究 (事業分野:革新的バイオ医薬品の開発) 研究体制:産業医科大学、岡山大学、東京大学医科学研究所、北海道大学、慶応大学 事業年度:平成 20-25 年度 平成 21 年度先端医療開発特区設備整備費補助金 107,198,700 円 平成 21・22 年度(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構からの受託研究費 149,600,000 円

(出典:内閣府ウェブサイト抜粋)

資料C-1-2-① 「広報戦略会議」について

- 構成：(学外2名) 中日新聞三重総局長、三重テレビ放送報道制作局次長、(学内)広報担当理事等
- 学外委員からの主な意見

- ・紙媒体の広報効果は、部数に応じて効果はある。新聞ではたまたま目に入る情報が大切で、その情報を通じて興味を持ってもらえる効果はある。「三重大 X」は大変面白く、津駅で切らさず配架する努力を評価します。
- ・情報発信は地方(現場)から行うことが重要である。効果的な方法は各社に直接働きかけることである。
- ・大学からの情報提供、特に研究情報は専門的に書かれすぎていて内容が分からないものが多いので、なるべくわかりやすくしてもらいたい。また、プレス・リリースは、見出しを見れば内容が分かるような工夫が必要。

(出典:平成21年度第1・2回広報戦略会議議事概要抜粋)

資料C-1-2-② 「文化フォーラム」の開催状況と広報活動の効果

年度等 開催地	平成20年度		平成21年度	
	開催日(参加者数)	広報効果	開催日(参加者数)	広報効果
志摩市	6回<6月25日~11月26日> (延べ参加者数:232名)	75%	3回<11月15日~12月13日> (延べ参加者数:63名)	55.8%
伊賀市	6回<5月27日~9月28日> (延べ参加者数:326名)	78.9%	6回<6月7日~8月23日> (延べ参加者数:352名)	65.3%
亀山市	6回<6月18日~11月26日> (延べ参加者数:184名)	41.7%		
鳥羽市			1回<10月3日> (参加者数:217名)	58.4%

※広報効果:参加者へのアンケート項目「開催情報の把握方法」のうち市町広報・新聞・テレビの合計(最高値)

(出典:平成20・21年度文化フォーラム in みえ報告書抜粋)

資料C-1-2-③ 「文化フォーラム」に関する満足度調査結果

開催地	志摩市		伊賀市		亀山市	鳥羽市
講演内容への関心度	20	21	20	21	20	21
とても興味が持てた	39.6%	27.0%	34%	23%	28%	48.9%
興味が持てた	40.4%	60.3%	43%	47%	52%	37.5%
ふつう	12.6%	9.5%	15%	18%	11%	6.8%
小計	92.6%	96.8	92%	88%	91%	93.2%
やや興味が持てなかった	5.2%	3.2%	3.0%	3.0%	5.0%	1.1%
興味が持てなかった	0.0%	0.0%	0.7%	0.8%	2.0%	0.0%
小計	5.2%	3.2%	3.7%	3.8%	7.0%	1.1%
無記名など	2.2%	0.0%	4.3%	8.2%	2.0%	5.7%

(出典:平成20・21年度文化フォーラム in みえ報告書抜粋)

資料C-1-2-④ 「学長と記者との懇談会」の状況

- 開催日時 平成21年12月18日(金)13時から14時
- 出席者 (学外)11社、(学内)学長、研究担当理事、財務担当理事
- 内容 行政刷新会議による事業仕分けの結果が本学に及ぼす影響について、学長から、本学がこれまで実践してきた地域貢献活動等への影響等について説明するとともに、事業仕分け自体への強い懸念を表明した。
- 掲載記事 12月19日朝刊:朝日新聞、伊勢新聞、中日新聞、毎日新聞、読売新聞(五十音順)

(出典:総務部広報チーム資料)

資料C-1-4-① 「産学連携技術者育成事業」の実績について <累計721名受講>

講座名	平成17～20年実績		平成21年度実績	
	受講生数	企業数	受講生数	企業数
失敗事例に学ぶ開発技術	276	54	32	21
実践管理工学	99	34	31	14
化学・プロセス産業基礎	—	—	38	25
製造管理者育成講座(北勢)	67	39	70	53
製造管理者育成講座(中・南勢)	—	—	58	34
メカトロ技術者育成講座	—	—	50	33
合計 (年間平均値)	442 (110.5)	127 (31.75)	279	180
平成21年度の上昇度	—	—	2.52倍	5.66倍

産学連携協力体制(技術者・メカトロ講座21年度実績)について

事項	三重大学	企業	合計
講師派遣	24名	31名	55名
講義時間	175時間	200時間	375時間
シラバス会議	100時間	100時間	200時間
テキスト作成	540ページ	500ページ	1040ページ
パワーポイント枚数	1160枚	1120枚	2280枚

(出典:産学連携技術者育成事業プログラム開発委員会資料等抜粋)

資料C-1-4-② 「平成20年度三重大学教員免許状更新予備講習」について

○受講申込者等について 受付総数706人

講習名	教育相談の理論と方法		学校における食育の推進		自然災害と日本の風土	
日程	8月5日(火)10:00～17:00		8月12日(火)10:00～17:00		8月20日(水)10:00～17:00	
会場	県立尾鷲高校	三重大学	県立鳥羽高校	三重大学	県立尾鷲高校	三重大学
受付数	78	501	131	451	73	402

※各会場の募集人員は30名。

※各日、南北に長い三重県の地理的特性を考慮し、受講する先生方の便宜を図るため、遠隔の2会場(三重大学と尾鷲地区・鳥羽地区)での開催とし、テレビ会議システムを導入して実施した。

(出典:平成20・21年度三重大学教員免許状更新講習事業報告書抜粋)

資料C-1-4-③ 「平成21年度三重大学教員免許状更新講習」について

○受講申込者等について 受付総数2,845人

領域	講習数	定員数(人)	受講申込者数(人)	受講者数(人)	履修認定者数(人)
必修	8	1,360	770	763	763
選択	108	3,974	2,102	2,082	2,078
合計	116	5,334	2,872	2,845	2,841

○講習に対する受講者の評価について(抜粋)

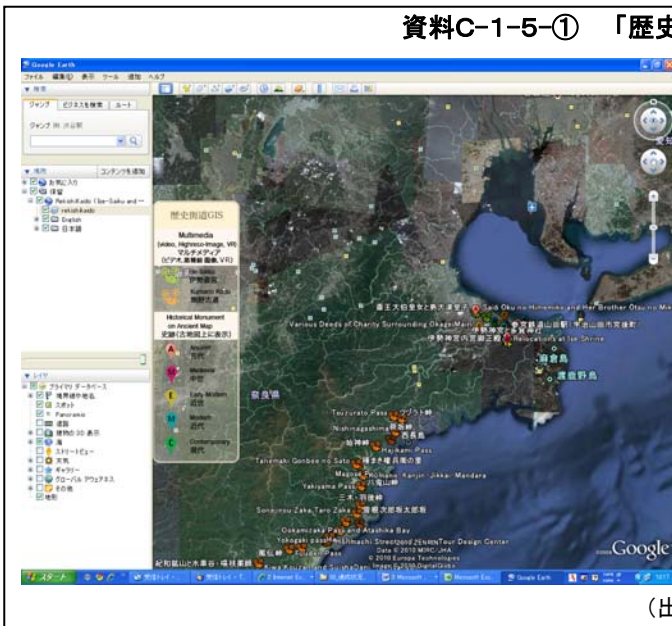
項目	合計(回答数)	必修(回答数)	選択(回答数)
①学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映していたか	3.306 (4823)	3.387 (2741)	3.199 (2082)
②講習のねらいや到達目標が明確であり、講座内容はそれらに即していたか	3.381 (4828)	3.360 (2741)	3.409 (2087)
③これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職での活用や継続した学習が見込まれるか	3.206 (4822)	3.152 (2739)	3.277 (2083)

回答項目:

- 1:不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)、2:あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった)、3:だいたいよい(満足した・成果を得られた)、4:よい(十分満足した・十分成果を得られた)

(出典:平成20・21年度三重大学教員免許状更新講習事業報告書抜粋)

資料C-1-5-① 「歴史街道 GIS」について



【20. 21年度 主な掲載コンテンツ】

- 三重大学 三翠会館(ビデオ)
- 伊勢型紙(画像)
- 三重県名所絵葉書(画像)
- 三重県水産(漁業)図解(画像)
- 「たわらや」講看板(画像)
- 津八幡宮祭礼絵巻(画像)
- 熊野勤心十界曼荼羅(画像)
- 三重県水産概略(画像)
- 三重県の民俗芸能(石取祭ほか)(ビデオ)
- 東海道五十三次浮世絵(画像)

(出典: 三重大学附属図書館「歴史街道 GIS」ウェブサイト抜粋)

資料C-1-5-② 「海女研究会」の主な活動について

(開催実績: 平成 20 年度 4 回、平成 21 年度 4 回)

公開状況	開催日	内 容 等
	平成 21 年 4 月 20 日(月) <ほか 3 回>	川口祐二 (エッセイスト、三重大学客員教授) 「志摩の海女 三人のはなし」 菅原洋一 (三重大学附属図書館研究開発室) 「海女研究会における調査研究資料の蓄積について」 塚本明 (三重大学人文学部) 「志摩市和具の海女聞き取り調査について」 「志摩市越賀区有文書の調査について」
	平成 20 年 10 月 6 日(月) <ほか 3 回>	菅原洋一 (三重大学附属図書館研究開発室) 「韓国における海女研究と海女世界遺産推進状況」 塚本明 (三重大学人文学部) 「海女研究の可能性—歴史分野から」 武笠俊一 (三重大学人文学部) 「鳥羽市菅島における海女シンポジウム」

(出典: 三重大学附属図書館「海女研究会」ウェブサイト抜粋)

資料C-1-5-③ 「レクチャーコンサート」の参加状況等について

年度	参加者数 (回答数)	参加回数について			講演内容について			
		初めて	2 回目	3 回以上	とても良かった	良かった	ふつう	よくなかった
20	202(105)	58%	28%	14%	76%	21%	3%	0%
21	364(217)	76%	11%	13%	63%	18%	2%	0%

○主な感想など

(平成 20 年度)

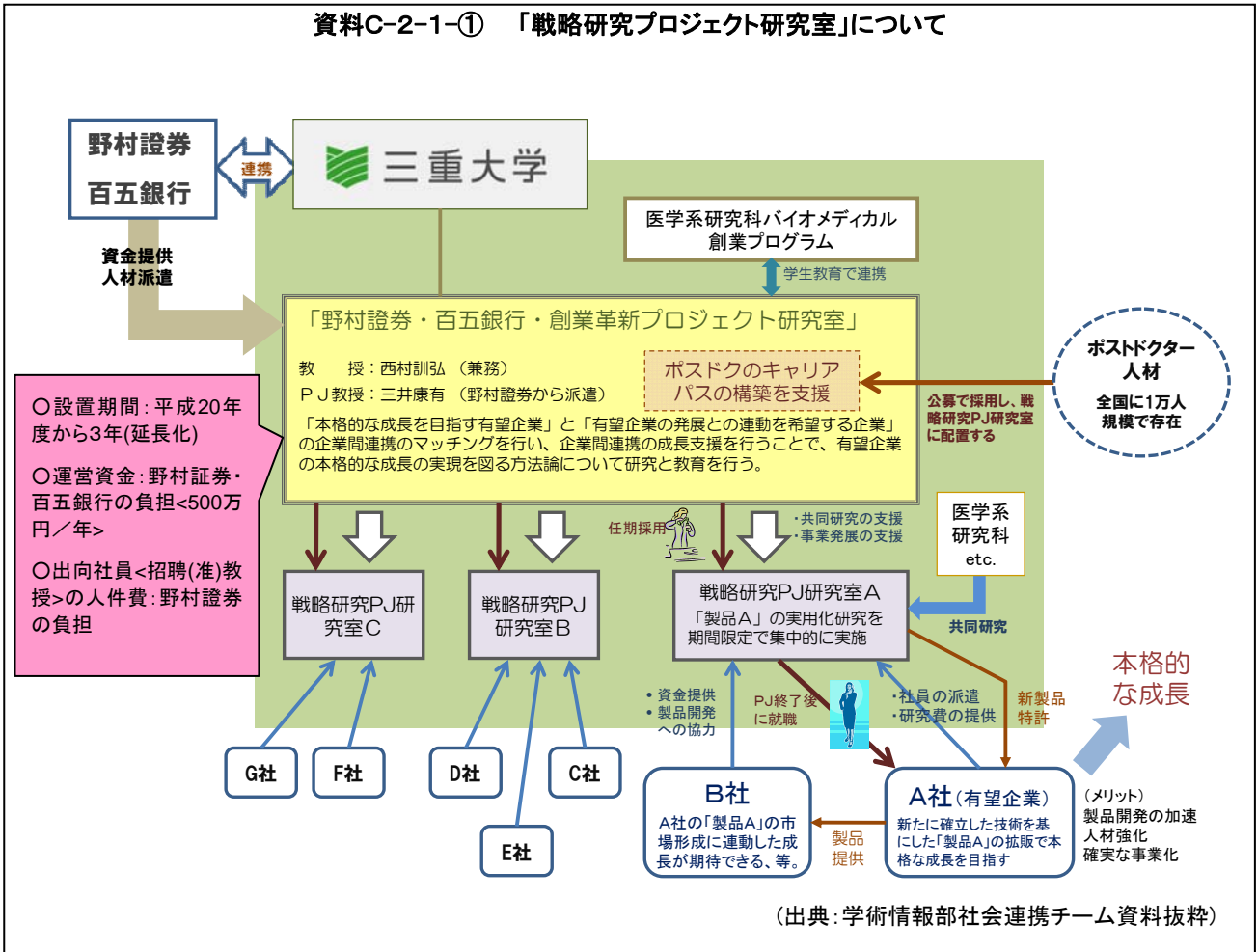
- ・ 4 人の方々がそれぞれ魅力のある声でとても心地よく聞かせて頂きました。解説も広く深い知識で背景もよくわかり、より楽しめました。伴奏のピアノも表情豊かで素敵でした。また聞かせてください。楽しみにしています(60 代末回答)
- ・ 昨年のレクチャーコンサートにも参加しましたが今年は会場が広く、大ホールだけあって音の響きがよくとても良かったです。来年も是非、参加させて頂きたいと思います(30 代女性)
- ・ 知の拠点として市民との交流をさらに深めてほしい。このような素晴らしい企画を多くの人に聞いてほしい(70 代男性)

(平成 21 年度)

- ・ オペラを観るのは初めてだったので楽しかったです。迫力満点でした(10 代女性)
- ・ 子どもがオペラを観る機会はなかなかないので、とてもありがたく思いました。私自身もオペラを観るのは初めてで、いい経験になりました(30 代女性)
- ・ 毎年生でオペラを聴けることを嬉しく思っています。毎年楽しみに思っています。素晴らしい公演をありがとうございます。ぜひ来年も来てください。継続が文化を創造していくと思います(60 代女性)

(出典: 平成 20・21 年度三重大学レクチャーコンサート報告書抜粋)

資料C-2-1-① 「戦略研究プロジェクト研究室」について



資料C-2-1-② 「包括的連携協定」等の締結状況について

協定先	内容	締結日
野村証券・百五銀行	三重地域圏のメディカル・バイオ・アグリ等に関連するベンチャー等を本格的な成長へと推進する支援方法を研究し、その実践を通して地域産業界の発展に貢献する	平成20年6月25日
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	大学とシンクタンクの連携により、研究成果の社会的還元支援、共同研究、情報・人材交流を通じた双方の社会的貢献活動の推進	平成21年7月9日
JAグループ三重	大学の教育研究成果とJAグループ三重の地域に密着した事業活動との産学連携を通じて、双方の発展と地域貢献活動の推進	平成21年11月12日

(出典：学術情報部社会連携チーム資料抜粋)

資料C-2-1-③ 産学連携戦略展開事業の採択について

採択事業名	実施期間等	事業内容
産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)「特色ある優れた産学官連携活動を推進する実施機関」(文部科学省)	平成20~24年度 (採択事業規模：約2.5億円)	三つの「三重地域活性化プロジェクト」を設置し、地域の中小企業の知的財産権を基にした成長を推進し、OJT教育によって同プロジェクトを企画・推進できる人材「地域振興プロデューサー」を育成する。

(出典：文部科学省ウェブサイト等抜粋)

「イノベーションコーディネータ賞」の授賞について

賞名	受賞者(所属機関)	受賞理由
イノベーションコーディネータ賞・科学技術振興機構理事長賞	西村 訓弘 (三重大学)	国立大学発ベンチャー第一号を設立した体験を生かし、三重大学に地域企業の課題を共同で解決する我が国初の大学院「地域イノベーション学研究所」を新設するなど、産学官連携による地域活性化のシナリオを組み立て実践することにより成果を上げた

(出典：科学技術振興機構ウェブサイト抜粋)

資料C-2-2-① 「みえ防災コーディネーター育成講座」について
(三重県地域防災力向上支援ふるさと雇用再生事業)

〇目的

三重県内では、大規模地震の発生が危惧されるとともに、集中豪雨や台風等による自然災害にたびたび見舞われている。このような状況の中で、平常時は、自主的に地域や企業等において地域防災力の向上のための役割を担うとともに、県や市町等の要請により防災訓練や啓発事業等の支援を行い、災害時には公的な組織等と協働して復旧・復興活動を支援するための十分な意識・知識・技能を有する防災コーディネーターを育成することを本講座の目的とする。

〇受講対象者

県内在住、在勤、在学中全期間受講が可能な者で、消防団員、地域の防災活動経験者または企業の防災担当者等とし、地域の防災活動に自主的に参画する意欲のある者とする。

〇講座期間<平成 21 年度>

平成 21 年 7 月から 12 月

〇「みえ防災コーディネーター」の認定等

県は、本講座を 26 講座以上履修した者を「みえ防災コーディネーター」と認定し、認定証を授与する。なお、「普通救命講習」、「図上訓練」(「被災者支援」または「防災行政」のいずれか 1 講座)は必須受講とする。

【※平成 21 年度実績：受講者 63 名・うち 62 名を認定】

(出典：平成 21 年度「みえ防災コーディネーター育成講座」受講要領抜粋)

資料C-2-2-② 「美し国おこし・三重さきもり塾」について

文部科学省 科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

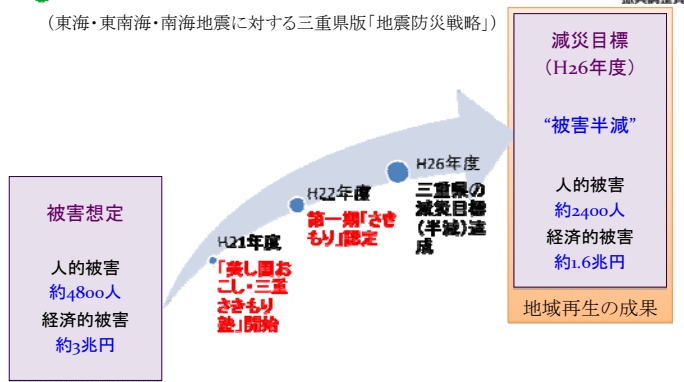
■目的：大学等有する個性・特色を活かし、地域の社会ニーズの解決に向け、**地元で活躍し、地域の活性に貢献し得る人材の育成**を行うため、**地域の大学(又は地域の大学等のネットワーク)が地元の自治体との連携により、科学技術を活用して地域に貢献する優秀な人材を輩出する「地域の知の拠点」を形成**する。

■実施期間：原則5年間(3年目に中間評価)

■費用：年間5千万円(間接経費を含む)を上限

2

三重県の掲げる減災目標
(東海・東南海・南海地震に対する三重県版「地震防災戦略」)



注：「第2次三重地震対策アクションプログラム」(三重県、平成19年7月)に基づく。

6

人材養成の手法 ①コース

さきもりコース(特別課程)

修了条件：新設科目7科目の全ての履修(研究成果報告書の提出を含む)
養成対象：社会人および既設大学院の大学院生
(主に行政・企業に所属する社会人の入学が見込まれる)
養成者数：年間10名以上、最終的に40名以上輩出
資格認定：修了者を「美(うま)し国三重のさきもり」に認定

さきもり入門コース

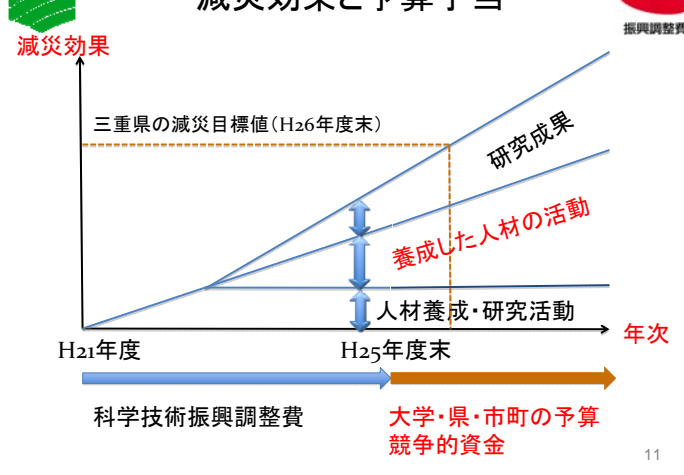
修了条件：新設科目2科目(地域防災学総論およびII)の履修
養成対象：社会人および既設大学院の大学院生
(主に地域の一般社会人の入学が見込まれる)
養成者数：年間30名以上、最終的に120名以上輩出
資格認定：修了者を「美(うま)し国三重のさきもり補」に認定
「美し国三重のさきもり」へのステップアップを促す

8

〇第 1 期生受講申込者等の状況

特別課程：16名(定員10)
(学校教育法105条・履修証明書交付プログラム)
入門コース：44名(定員30)

減災効果と予算手当



11

(出典：「美し国おこし・三重さきもり塾」事務局作成資料)